

力の先にキラリと光る何か ひとつ向き合うことこそ人生

対談 リレー

幼い頃からのスパルタ指導があったから
子ども心に学んだことは
伸びるよりしっかり根を張る大切さ
生みの苦しみはモノを生み出す苦しみではなく
何かができる領域に到達するまでの時間のこと……
できるということは早く無限にできるということ

紫 舟

書家／アーティスト

代表作、NHK大河ドラマ『龍馬伝』、美術番組『美の壺』、伊勢神宮『祝御遷宮』、内閣官房『JAPAN』、ディズニー・ピクサー『喜悲怒嫌怖』、資生堂×紫舟コラボ。

天皇皇后両陛下に紫舟展を御覧頂く（2017 愛媛県美術館）。

フランス・ルーブル美術館地下会場で開催されたフランス国民美術協会展で、書画で金賞、書の彫刻で最高位金賞と、日本人初の金賞ダブル受賞。「北斎は立体を平面に、紫舟は平面を立体にした」と評価（2014）。翌年同展にて世界で1名枠とされる「主賓招待アーティスト」に選出。日本人では横山大観以来、現存日本人初。

日本の伝統文化である「書」を、書画・彫刻・メディアアートへと昇華させながら、文字に内包される感情や理を引き出し表現するその作品は唯一無二の現代アートとなり、世界に向けて日本文化と思想を発信している。

トップになるには才能が必要、努 困難の姿でやってくる夢に、ひとつ

自分を裏切らずにいれば

筆をおかなければならない時は来ないと思う

総ての命を敬い、他の存在を尊ぶことの素敵

慈悲と言葉を超越した人に「恩」の文字

近づけるよう努力したい……

生み育ててくれた親へ贈りたい「恩」の文字

赤塚保正

(株)柿安本店代表取締役社長

1963 年三重県生まれ

1987 年 3 月慶應義塾大学法学部卒業、米国ニューヨーク州へ留学

1989 年 6 月 株式会社柿安本店入社

2001 年 4 月 常務取締役

2004 年 12 月 専務取締役

2006 年 12 月代表取締役社長（6 代目）に就任、現職中

2017 年 7 月現在一般社団法人日本フードサービス協会（J F）

副会長及び食材調達・開発等委員長



「銀座別邸」屋号の書は

赤塚社長のイメージ

赤塚 リレー対談のお相手に指名させて頂きましたのは、書家の紫舟さんです。どうぞ宜しくお願いします。

紫舟 宜しくお願いします。

赤塚 この「銀座別邸」がオープンするにあたって、紫舟さんに屋号のデザインを描いて頂きました。私はNHKの大河ドラマが好きで必ず見ており、2010年の『龍馬伝』のオープニングで紫舟さんの字を拝見して、お名前を知りました。もうひとつは、2013年に行なわれた伊勢神宮

の式年遷宮に際して「祝御遷宮」と揮毫して奉納なさり、私は三重の出身なので、お会いしたこともないのに「いつかお目にかかつて書をお願いできないだろうか」とその頃から憧れを持ち続けていました。1年半前に新しいコンセプトで、柿安のフラッグシップ、いわゆる、看板店を銀座に創る時に、憧れの紫舟さんに屋号のデザインを實際打診させて頂くことが叶いました。

紫舟 当時のアトリエに来て頂きましたね。赤塚 この店はお客様や社員に向けて、柿安創業145周年を何か形にして残したいと考え、東京初進出の地である銀座にオープンしました。紫舟さんには、1時間

半程お時間を頂戴して、会社案内はもちろんです。父が77歳の時に書いた『柿安の歴史から商売のこだわり』という本をお持ちして、この店に対する私の想いをお話ししました。そして具体的にお仕事をお願いしたのが「銀座別邸」の屋号であり、紫舟さんとのご縁の始まりです。

紫舟 赤塚社長と初めてお目にかかったのは2年くらい前でしたね。

赤塚 「銀座別邸」という屋号のデザインを決めるにあたって、何度も何度も描いて頂きました。実際にアトリエにもお伺いしましたが、その迫力たるや本当に凄かったです。

紫舟 最終案として、ひとは力強い感じの作品、もうひとつは、少し優しい感じの作品を、それぞれ2パターンをお持ちして、「後は、赤塚さんご自身で選んで頂ければ」と申し上げました。

赤塚 凄く迷いましたね。あの時、紫舟さんは「おそろく、お父様の会長さんでしたら前者、赤塚社長でしたら後者の字ですね、ちよと優しい感じなので」とおっしゃっています。

紫舟 丁寧に額装して飾って下さってとても嬉しいです。

赤塚 当初、私の部屋にかけていたのですが、それでは独り占めになってしまうので、お越し頂くお客様に覧頂きたいと

思っ、「愛宕」という一番いいお部屋の入口に、さりげなく飾らせて頂いています。このビルは、よく見ると少し流線形で、それも意識して下さったのかなと想像しています。

紫舟 書を書く時には、実際の内装はできる前でしたが、デザインを見せて頂いておりました。お会いしたときに頂いた本で、柿安様の沿革や、歴代の社長のお人柄を知り、制作に取りかかりました。打ち合わせの時に社長が「さすが柿安だ」と言われるようなお店を作りたい」と、何度も仰っていたのがとても印象的でした。

赤塚 そんなに何度も言っていましたか(笑) 紫舟 最初に依頼頂いた時は、太い字がいいとのことでしたので、太い字も書きましたが、どうしり書くこと本に出てくる先代の様な雰囲気になってしまつて……。

赤塚 先代のイメージは、力強いですからね。

紫舟 赤塚社長はとてとても文化的で、社長職をしていらつしやなければ、篠笛を吹いたり能を舞ったりされていたのではないかと思います。

赤塚 紫舟さんにも通じる世界です(笑)

紫舟 そういった、文化的な細部に行き届く感性や感覚は、「どうしり」ではありません。打ち合わせに伺った時も、「お店の玄関が大事だ。エレベーターを降りた瞬間の感覚が大事



なんだ」と、細部に至る、クリエイティブな精神を熱く語られていました。これだけ大きな会社の社長というお忙しい立場でありながら、屋号にこれほど時間を割いて熱く語られる方はそうはいらっしゃいません。と言うことは、題字だけではなく、お皿一枚、社章ひとつにも、総て現場に行っておられるんだらうと、お察しました。そういう方が作るものと、担当者任せのものとは、完成品が全く異なりますよね。社長がクリエイティブで、ものの創りへの敬意を持つていらつしやるのが伝わり、そのような部分も本当に私と近く感じ、制

作意欲がますます沸きました。赤塚 この文字を書いて頂いた紙は、一般的な和紙ではないですね。どうしてこの紙を選ばれたんですか？ 紫舟 流れる様に書きたいと思っていたので。普段作品に使っている和紙も100種類ぐらいの紙の中から選んだものです。その中から厳選した数種類から、赤塚社長のイメージに合うものを選びました。実は、屋号の書を一点ご決定頂いた後で、もうひとつ書きました。採用して頂いた書には細い線が2本あり、小さく縮小した場合に使い難いのでは、と思い同じような書体でもう少し太い線で書き直し、それらも

ご提案しました。でもそれは、ご決定頂いた初めのものに似せたもので、ゼロから生み出したものとは違いますから、見抜かれてしまいます、それで、勝手に描いて勝手に却下させて頂きました。

赤塚 お蔵入りにしてしまつたんですね。紫舟 使いやすさという点では、似せて描いたものの方がいいかもしれませんが、本物が持つものと真似たものが持つものの差は、僅かですが、一流を見ている方には見抜けたのです。

赤塚 うちの設備担当はこの看板を作るにあたって、この書体の字が細くて大変苦労をしていましたが、そこまで考えて下さったことに本当に感謝致します。

実業家・赤塚氏と書家・紫舟氏 「縁と共通点は……？」

赤塚 紫舟さんは、2015年のミラノ万博の日本館に作品を出しておられました。柿安もすき焼きレストランを出してしまつたので、2週間程滞在していた間に何度も日本館に足を運んで紫舟さんの作品を拝見しました。

紫舟 スイスのIOC本部の委員の方々から作品の説明をしてほしいと依頼を受け、その日は世界の要人がいらつしやっている日と重なり、遅れて説明に伺うと、ちょうど彼らは柿安様のすき

焼きセットを召し上がっていましたよ。赤塚 三重県での「縁、ミラノでの「縁、そして銀座での「縁、知り合う前にもそんな「縁があったんですね。

紫舟 この縁は不思議ですね。ところで屋号はどういうイメージで額装して下さいましたか？

赤塚 看板というのはお店の顔ですから、当社の美術担当が飾る場所の壁の色や照明をトータル的に考えて、紫で品よく、かつやや豪華にと決めました。実は「柿安」の名前を入れない看板を作るのは今回が初めてです。先代、先々代から必ず「柿安」をつけることにこだわってきました。弊社のグループは、現在約400店舗ですが、和菓子も含め全部「柿安」がついています。今回、「銀座別邸」だけは、あえて「柿安」をつけないことを、先代に了解をもらつた上で、描いて頂きました。そういう点では私共にとつて新しい試みであり、145年に至つた大きな決断と言えます。

紫舟 今後も「柿安」をつけない展開を考えていらつしやるのでしょうか？

赤塚 この「銀座別邸」は、柿安のプレミアムブランドなのです。柿安のブランドは、松阪牛を使っている銀座7丁目の料亭は「柿安」、お惣菜は「柿安ダイニング」、ピッツァレストランは「柿安三尺三



さったそうですが、どのようなプロジェクトですか？

紫舟 これまで海外展開していた商品は、現地でデザインしており、世界で統一したデザインがなかったそうです。それで、初めて日本で世界統一デザインの商品を発売する時に、資生堂様がコラボレーションのパートナーに選んで下さいました。

赤塚 書だけでなく、絵もデザインも手がけられたそうですね。

紫舟 書は6歳から始めていましたが、もともとは絵描きになりたいと思っており、今でも日々絵を制作しています。今回思いがけずその夢が実現しました。社長の夢は何でしたか？

赤塚 海外で金融関係の仕事をしたくてアメリカに行った時に勝手に就職を決めて来たんですが、残念ながら強制送還になりました(笑)

作家の地位を高めることと「モノづくり日本」をつなぐこと

赤塚 紫舟さんの書との出会いについてお聞かせください。

紫舟 父方の祖母には、孫は全員、日本舞踊と習字を習うというルールがありましたので日本舞踊は4歳、書道は6歳から始めました。両親は書道家ではありません。兄弟もい

とこも全員お稽古に通いました、書家になったのは私一人です。祖父母は、自身でも週一回掛け軸を変えて季節の設えをし、お茶を点て、日本舞踊を舞い、一方で水墨画家や陶芸家や刀鍛冶など文化人を支援していました。おかげで文化的なものに囲まれて育ちました。日常的に文化に触れ、当たり前のように視野の中に文化的なものが入る環境は、赤塚社長もそうだと思います。私と赤塚社長と似ているところです。

赤塚 とこで『龍馬伝』の題字は、どのような経緯でお書きになったんですか？

紫舟 あの時、私が本命ではなくて広告代理店さまがご担当するはずでした。土日を含み最終決定の5日前にNHK様から「いいものが出てこない。代理店コンペを何度しても中々決まらないので」と電話があり、コンペに参加してほしいと言われたのです。まだどんな大河ドラマになるのか決まっていなかったのですが、「竜馬がゆく」を読み、福山雅治さんの音楽を聴き、手に入る情報を身体に入れて、柿安さまのプレゼンと同じ様に、2案持ってNHKさんへプレゼンに行きました。私は代理店さまの後でした、その時、目の前に座っている10人ほどのNHKの方々目の色がパッと変わったのが判りました。そして、その時に、著作権

寸箸、和菓子も「柿安口福堂」としています。しかし「銀座別邸」については、プレミアムブランドということで、敢えてつけていません。この先は、お客様、立地条件、そして、どういうものを取扱うかによって、柿安創業150周年に当たる2020年のオリンピックイヤーまでに「別邸シリーズ」を都内にもう一軒創りたいと考えています。紫舟 記念になりますね。

赤塚 その時にはまた、書をお願いしたいと思います。紫舟さんは世界で活躍されていて、東京におられないことが多いので、また描いて頂くためにも、もっと私が努力しないとダメですね。天皇皇后両陛下を松山での個展で案内しておられたのをテレビで見ましたので、もう描いて頂くのは難しいかなとも思いますが、一方で、私の熱意や頑張りを見て評価して下さいるので、私の努力をご覧頂ければ「いいですよ」とおっしゃって下さるのかなと期待しています。紫舟さんの魅力はスケールの大きさです。とても華奢ですがに部屋に入ってきたられるとふわっと大きく感じますね。ところで最近資生堂ともコラボレーションをな



「JAPAN」

は作家に持たせてほしいとお願いをしました。当時は、総ての権利を、依頼者が持つことが主流で、制作した本人には何も残りませんでした。今でも多くの大企業がそうですが、モノをつくった本人の名前を、表に出してもらえないこともあります。モノづくり日本は、モノを作りだしたものの

の契約は常に不利で、敬意も少ない社会でした。それは、モノづくりに携わる一員として、次の世代に残したくない慣習です。東京に来る前は、大阪で仕事をしていたが、お金が支払われないことも普通にありました。支払うときになって減らされていたりと、作家の地位は底辺に近い状態でした。「モノづくり日本」が崩壊しないよう、モノを生み出せる者の地位向上のために、お願いをしました。

赤塚 そんなことが本当にあるんですね。

紫舟 NHK様が変われば、社会は変わると思います。利用許諾の形でお願いし、著作権は本人に残してほしいと丁寧にお話をしました。普通の担当者は、それは譲れませんよね。大河ドラマの題字は、書家にとっては喉から手が出るほどほしい仕事で、「権利を残してほしい」なんておがましくて言えないのですが、これから私の後に続いて行く多くの作家のことを考えると、どこかで変えなくては……。変えることができればいい、もし変えられなくても、ここで私がモノづくりに関わる文化人の一員として大切に思うことを曲げてしまうと、私の作家人生は少しずつずれていずれば違う所に行ってしまうと分かっていましたので、ずれては行かないと決意しました。何日か経って、最終的にNHK様にご理解頂きました。作家の地位向上のために、モノづくり日本の

ために、何か変えていければ願っています。赤塚 ここで曲げたら、文化がおかしくなる、ついでにことですよ。

紫舟 そうです。赤塚社長には私の作品を複数お持ちいただいています。それは私の未来や日本の文化を支えて下さっているのだと思っています。それによって私は次の作家アシスタントを育てることができ、さらに次の作品を制作でき出来るのです。書に限らず、多くの文化は、買い支えることで、次世代へつなぐことができるのです。

赤塚 でも作品がよくないと買いませんよ。弊社の幹部が使う会議室には、「紫舟さんが描いて下さった力強さのある「底力」という書がかかっています。商売にはやはり最後は底力が必要ですからね。また、会社としてお店として、お客様への感謝の気持ちや温かい気持ちを表現した書を揮毫して頂きたいとお願いしているんですよ。

紫舟 ありがとうございます。今日せっかくお会いするのと思って、先日アトリエで依頼いただいた作品の途中ですが3文字まで書いておりますのでご覧になっていただければ……。

赤塚 ありがとうございます。いやあ、素晴らしいです。

紫舟 イメージは、社長が本当に感動した時に見せてくださる、社長のキラキラした瞳です。感動して瞳が潤いますよね。瞳

が喜び、そして光る感じに仕上がっています。赤塚 瞳、ついでにのがいいですね。本当に完成が楽しみです。

「トップになるための才能」を 探し続けた子供時代

赤塚 今後は、どのような活動をなさるご予定ですか？

紫舟 11月にパリで個展、12月沖縄、年が明けてアラブ、ミラノ、東京と月二回のペースで個展があります。書家になった時「年間10回個展を開催する」と決めました、実際は15回くらい開催しています。実際の制作は道具があるアトリエで創作していますが、移動中は宙に指を動かすイメージで書けたり、パソコンを使って絵の下図制作をしています。複数を同時並行で進めている感じですね。

赤塚 本当に想像力、空想力が非常に豊かだと思いますが、幼少時からの環境の影響、才能についてどうお考えですか？

紫舟 一桁の年齢の時に「自分の才能がどこにあるのかを探そう」と思いました。6歳から書を習っていました、24時を回ってもできるまで帰らせてもらえない厳しい先生でした。10時間も書いていると、手が勝手に動き出す感覚を、小学生時代からよく感じていました。そんな風に子供の頃から訓練を受け、それだけの時間と労力を



注いでも、「トップクラスにはなれるけれど、トップにはなれない」と思いました。
赤塚 小学生でそこまで考えられるのは凄いですね。

紫舟 トップになるには才能が必要だと感じたので、書は才能がなかったため、親に頼みバイオリン、剣道、合気道、華道あらゆるお稽古事をさせてもらい、自分の才能があるところを探しました。合気道は大好きでしたがセンスも才能もない、バイオリン

はもつとない……。お花は……と、結果的にその時に分かったことは、「生みの苦しみ」と言うのは、ひとつのものを極めできる領域に到達するまでの、凄まじく長い時間」ということでした。書は、その「できる」という入り口に、他の好きなことや得意なことと比べて、近づいているとは思わず、少し前までは近づけてもなくて全くできませんでしたが……。ですから生みの苦しみが6歳からずうっと続いているのです。その

間は、才能やセンスというよりも努力で入り口まで到達するのだと思います。

そして、できる領域に入ると、今度は無限にできるのだと思います。早く、大量に、無限にできる。ですから、才能はこれから先に発揮されるもの・必要なもので、ここまでは努力と諦めない才能があれば到達できるように感じています。そして、「きつと自分を裏切らなければ、筆をおかなければいけない時は来ないだろう」と思っています。

赤塚 「継続の力」みたいなものですか？
紫舟 そうですね。1万時間費やす。それが入口なのかなと思います。

赤塚 そこまでいかないと才能は発揮できない、ということですか。
紫舟 1万時間までは努力で到達できる、ここからは、何かキラリと光るものが必要なのかもしれません。それは、子どもの時に「才能があるものを探そう」と思っていました。費やした時間が足りませんでしたので、結局自分では才能が見つけれなかった、才能は芽を見せてくれない。子どもの時からお習字の練習を全然しなくてもすぐ書ける子はいます、それは才能というより、センスや勘がいいと言うのかもしれない。

赤塚 野球の長嶋茂雄さんも、15歳まで野球をやったことがなかったそうですよ。それでも閃きがあって伝説的な選手になり

ましたよね。紫舟さんも、努力をなさった時に神様がお与えになったものがあって、それが書家としての道を拓いたのではないのでしょうか。24時過ぎまで指導し続けてくれた師匠との出会いも、大きかったのかもしれないですね。

紫舟 子どもは20時には寝ていますがね。それなのに24時を過ぎても帰らせてくれないので泣いてみました。涙は全く通用しませんでした……。そこまで追い込んで下さったので、子どもながらに否が応でも「伸びるより根をしっかりと張ることの大事さ」を学びました。

赤塚 子ども頃に「自分の才能を探す」というのは、ある意味子どもらしくないですね。普通はもつと単純で、好きだからこれをやり続けたい、という欲求が強いのですが、なぜ「自分の才能はどこにあるんだろう」と思われたんですか？「お嫁さん」とか「ケーキ屋さん」とかではなく、最初から、将来は自分の才能で何かをやりたいと思っておられたわけですよね？

紫舟 いろんなことに対して深く考える子どもでした。同じことを何年も考え続けたります。大人は自分の夢は語らないまま、子どもに「夢は何？」と聞きますね。すると、子どもは「サッカー選手」「お花屋さん」などと答えます。誰もが職業を答えます、職業はそれほど大切なものと幼い



ながらに思いました。当時は、私の夢が何か分からなくて、その夢に値するほどの天職は何だろう、と。一方で、特に何かになりたいものもなく、そこで「才能を探そう」と行きました。

赤塚 凄いですね。考え方が哲学的です。

夢は困難の姿でやって来る

それに対処し続けることが大事

赤塚 「夢は追い求めれば叶う」と言われ

ることもありますが、紫舟さんは「夢は困難の姿でやって来る」と仰っていますね。夢は何となく「いいもの」というイメージが強い言葉だと思いますが、それを「困難」と仰るのは、実際そういう風に思われるようなことがあったんですか？

紫舟 ええ、実際に困難の姿でやって来ました。2015年にルーヴル美術館地下会場で展示する機会を頂いた時です。その前2014年に日本代表に選ばれて、大変

な思いでフランスまで自分で作品を選び展示、そうしたら、一番いい金賞「審査員賞金賞」を受賞したのです。フランスを代表する名だたるルーヴル以外の美術館や博物館の審査員、十数名が全員一致で書を立体彫刻にした私の作品を金賞に選んで下さいました。さらに、絵も金賞を頂き、翌年には世界でただ一人選ばれる主賓招待アーティストに選んでいただき、260㎡ほどあるルーヴルの地下会場で展示する機会を頂きました。2014年は分からないまま終わりましたが、2015年は半年以上、毎日が困難で……。毎日毎日、困難のオンパレードでした。「困難はこんなに毎日起こるんだ！」と驚くほど、問題が次々発生して、解決できたり、できなかったり、どうにもならなくなったり、9月から12月まではさらに辛く厳しい毎日になり、毎日苦しいのです。

赤塚 展示に向けた追い込みの3カ月ですね。

紫舟 諦めればどんなに楽かとも思いました。私も、スタッフも、フランス側も、皆大変で。私はギャラリーや団体に所属しておらず個人で活動していますので、作品50箱ほどの運搬も自分達で手配をし、会場に壁を立てる指示を出し、照明家に光を調整してもらい……。そのまま初日を迎えてもまだまだ問題は起こります。展示が終わり、シャルルドゴール空港の丸い大きい照

明を見ながら、それでも「ああ、終わったあ」と感じる程度が精一杯。ところが、日本に帰り作品をアトリエに運び終えた時、何とそれまで起こっていたさまざまな問題が総て解決したのです。夢を叶えた実感ではなくて、ただ困難に一つひとつ向き合って終わりました。腑に落ちた感じでした。

赤塚 困難を乗り越えた、と言うのとも違ったわけですね。

紫舟 ひよつとしたら、夢というのは心地よくて快適で柔かくて優しく温かく包み込んでくれるものではなく、困難の姿をしてやってくるのかもしれない。なので、人は途中で諦めたり、ステージから降りたり、避けたり逃げてしまう。最初から夢は、困難の姿でやってくるのと知っていれば、夢をたくさんの方が諦めずに済むのかもしれない。夢は優しくない。夢を叶えた実感はあっても、「夢、最高！」という醍醐味は微塵もありません（笑）。

赤塚 達成感を味わうこともあるんですか？
紫舟 次に夢を叶えられる機会があれば、その時はその夢を叶える瞬間を味わってみたいですね。意外かもしれないですが、それでも今も、夢を叶えること＝人生とは思っていませんでした。

赤塚 紫舟さんにとって、人生とはどんなものですか？

紫舟 例えばこれまでインタビューを受け

て「これからは女性進出の時代です。憧れの女性はどなたですか？」と聞かれても、仕事の憧れなのか、プライベートなのか、両方なのか分からなくて、回答できずにいました。先日、松山で皇后陛下と紀子様と一緒の時間を過ごすことができて、この世にこのような素敵な女性がいらっしやることを知りました。「素敵」を具体的に申し上げますと、『他の命を敬い、他者の存在を尊ぶことができる方』です。例えば、スターになるとファンが押し寄せ集まってくると嫌だったり、見つからないようにしたり。丁寧サインや写真撮影に応じると、『神対応』などとSNSで報じられます。おふたりは、道行く人々、何千、何万人もの人々に、お車の中からずっと笑顔で手を振っていらっしやいました。

赤塚 そうですよ。ねえ。

紫舟 お車から降りてからも、そこにいらっしやる数百人の人々に対して自ら出向きお近づきになり、ご挨拶をされ、車椅子の方には腰をかがめてお話しになったり、小さな子には目線を合わせてお声をおかけになったり、総ての人々の存在を尊ぶのかのごとく丁寧に接しておられました。美術館に着いても何人の方が並んでいます、その人達にも温かくご挨拶をされていました。私は美術館の中で自分の作品のご案内させて頂きました、その間ずっと私に質問をし

て下さるんですね。質問をするということとは、相手に対して関心を示しその存在を認めることです。目の前の人に質問をし続けるというのはとても難しいことでもあります。それをし続けて下さる。小さな虫のような命に対しても人にも総ての命を敬っていらして、総ての存在に対して同じように接して下さいます。一般的には、人は挨拶をしたことがある人、仕事をしたことがある人、見知らぬ人、という風にどこことなく対応を変えていることがありますよね。

赤塚 皇后様も、紀子様も、総ての人に同じ対応をなさっていたんですね。

紫舟 慈悲という言葉を超えた溢れる何かで、あらゆる存在を包み込める方に、初めてお会いしました。私は現世でそういう人になれそうにはありませんが、それでも努力することはできると思うのです。もしかすると、人生の中の、夢を叶える、成功する、願いを実現する、自己実現、それらは、気付きやきっかけで、人生はそういう人になれるように努力することなのか、なと今は思っています。

赤塚 最後にもうひとつお伺いしたいことがあるのですが、ご自身を産み育ててくれた両親に書を贈るとしたら、どのような文字をお描きになりますか？

紫舟 「恩」ですね。産んでくれただけで一生かけても返せない恩があります。育て

てくれた両親には、何世かけても返せない程の深い恩を感じています。

赤塚 では、現在のご自身を文字で表現するとしたら？

紫舟 「ID」でしょうか。

赤塚 漢字ではないんですね。おもしろいし、新鮮ですね。

紫舟 IDの努力をして、10や100や多くを得ようとせず、1つ得る。またIDの努力をし、ID成長する。そういう努力の仕方が、私には向いているようです。

赤塚 絵とかデザインとか、さまざまお得意になりますが、やはりペーシは書ですね？

紫舟 はい、そうです。

赤塚 子どもの頃には武道もなさったと仰っていました、剣道や合気道は今後もうされていないのですか？

紫舟 合気道は大人になっても続けていました、右肩を何度も脱臼するため書家の今は控えています。が、いずれまた稽古を始め、お婆さんになつても続けたいと思っています。

赤塚 これからも、素敵な作品を楽しみにしています。今日はありがとうございました。

紫舟 こちらこそありがとうございました。



「夢」